あまのじゃく、宇宙人、
ウロボロス、時間旅行、
手毬唄、人形、密室、
未来記、無限……

圧巻のB5判・1368頁・4段組・上製函入。

物語要素事典

人類の生み出してきたあらゆる物語を、その核となるアイデアごとに分析し網羅する無類の大事典

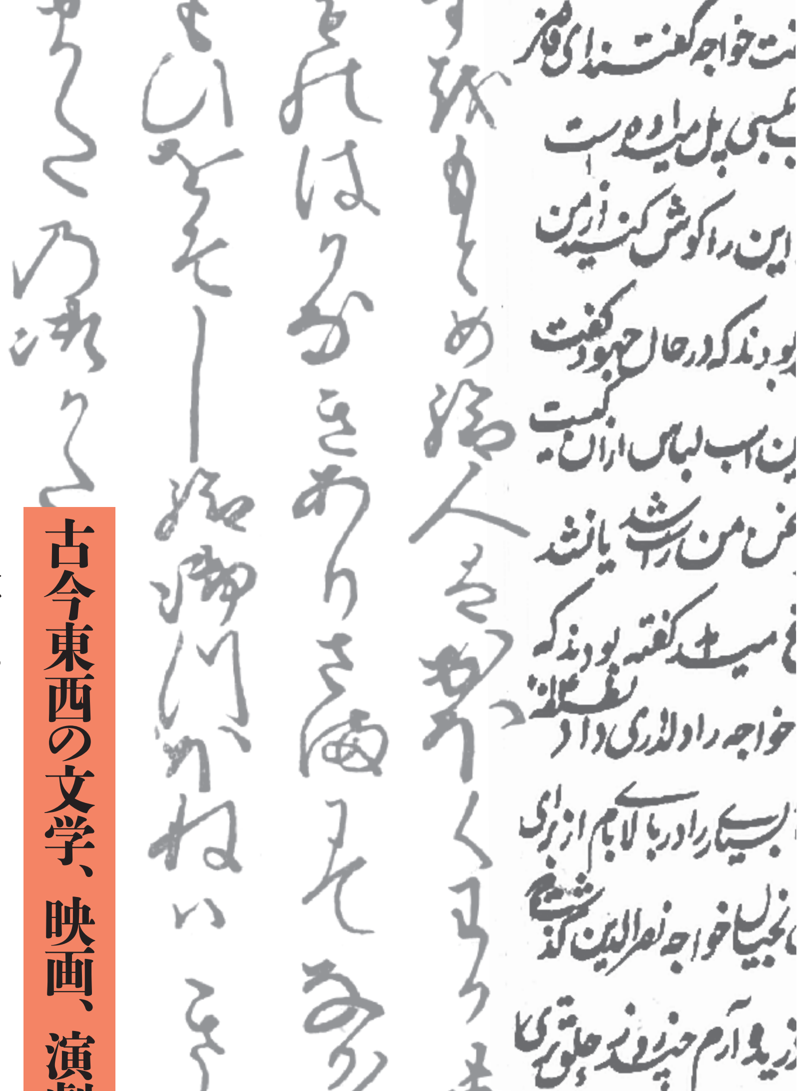
愛知学院大学名誉教授
神山重彦

国書刊行会

時代もジャンルもメディアも異なる物語に、共通する発想が潜んでいる。物語のアイデアをあまねく拾い上げる、小宇宙のごとき至上の目録。

The Encyclopedia of Story Components

古今東西の文学、映画、演劇、落語、昔話、歌舞伎、神話、マンガ、都市伝説——



1,135に及ぶ物語要素別に、延べ11,000超の作品の筋書きを紹介。
巻末には詳細な作品別索引ならびに作品典拠を収録。

"Very well, sir. And this stone?"
"Ah, yes, I shall keep the stone. Thank you. And, I say, Peterson, just buy a goose on your way back, and leave it here with me, for we must have one to give to this gentleman in place of the one which your family is now devouring."
When the commissionaire had gone, Holmes took up the stone and held it against the light. "It's a bonny thing," said he. "Just see how it glints and sparkles. Of course it is a nucleus and focus of crime. Every good stone is. They are the devil's pet baits. In the larger and older jewels every

【本書の特徴】

❖「物語要素」という独自の切り口

地域・時代・作家ごとではなく、アイデア・筋書き・関係・行動・結末といった作品内部に踏み込んで分類し、筋書きを紹介。地域も時代もジャンルもまったく異なる物語のあいだで、密かに共通している着想が浮かび上がる。

❖取り扱う作品の幅広さ

文学作品に限らず、ストーリーを持つものすべてを幅広く網羅。言及されている作品総数はおよそ四五〇〇、物語要素別に延べ一一〇〇〇超もの作品説明を収録。

❖網羅的な作品別索引、仔細な書誌情報、学術的正統性

巻末には、本文中の全作品説明に対応した作品別索引を付し、作品説明が依拠する書誌情報をすべて明記。学術研究における基礎的なレファレンスとしても有用である。

❖物語のアイデアの面白さを伝える

古典のみならず、映画や都市伝説、現代のエンターテイメント作品等も幅広く取り扱う。専門家ではない読者にも親しみやすく、物語の各アイデアを楽しみながら学ぶことができる。

本書をおすすめします

- ●小説、マンガ、映画、美術、その他の創作に関わる人。
- ●物語の研究ならびに講義に携わる人。
- ●大学総合図書館、文学部、教育学部、創作・メディア系学部、美術大学の図書館。
- ●中学・高校の図書館、県立図書館、市町村立図書館。
- ●美術館・博物館の図書館。

『物語要素事典』神山重彦 著
B5判・上製函入・総1368頁
定価：本体26,000円＋税
ISBN978-4-336-07645-8 C0590
2024年10月刊行
装丁・本文デザイン◉美柑和俊（MIKAN-DESIGN）

国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
Tel.03-5970-7421 Fax.03-5970-7427
https://www.kokusho.co.jp
e-mail: info@kokusho.co.jp

帳合・書店印

注文書 この注文書で最寄りの書店へお申し込みください。

国書刊行会
物語要素事典 神山重彦著 **冊** を申し込みます。

お名前	
ご住所	
電話	FAX

作品別索引と書誌情報

本文中の全作品説明に対応した作品別索引を付し、作品説明が依拠する書誌情報をすべて明記。

取り扱う作品

古事記、源氏物語、三国志演義、ダンテ、ディケンズ、ユゴー、ボルヘス、星新一、小松左京といった時代も場所もとわない文学作品はもちろん、小津安二郎、黒澤明、キューブリックなどの映画作品、能・歌舞伎・浄瑠璃・落語などの伝統芸能、シェークスピアやベケットなどの戯曲、インド・中国・オセアニアそのほか世界各地の神話・伝説・説話・昔話、グリムやアンデルセンをはじめとした童話、仏典や聖書、手塚治虫、水木しげる、長谷川町子などのマンガ、都市伝説——と、ストーリーを持つものすべてを幅広く網羅。

◉索引ページ見本：85%縮小

著者について

神山 重彦（かみやま・しげひこ）

1951年、名古屋市生まれ。愛知県立大学文学部卒業。名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。名古屋大学助手、山形大学助教授、愛知学院大学文学部日本文化学科教授を経て、2021年より同名誉教授。古今東西のさまざまな物語の核となるアイデアを収集・分析・分類した『物語要素事典』の作成を研究の主眼とし、本書はその研究成果の集大成となる。

※使用図像出典（部分・加工）：『源氏物語 桐つぼ』紫式部、国立国会図書館デジタルコレクション／『古板三國志演義 巻1』九州大学附属図書館所蔵、九大コレクション／『和漢三才圖會』寺島良安、国文学研究資料館所蔵、国書データベース／『日本探偵小説全集 第3篇 江戸川乱歩集』改造社、1929年／'Abd Allāh. Mufarrijat-i Khvājah Naṣr al-Dīn musammá bih Girih'kushā-yi dil ma'a Fālnāmah'alayhi al-raḥmah Mushfiqī va ḥikāyat-i shīrinish, Khvājah(『ナスレッディン・ホジャ物語』), Library of Congress, African and Middle East Division, Near East Section Persian Manuscript Collection.／Adventures of Sherlock Holmes, A. Conan Doyle（コナン・ドイル『シャーロック・ホームズの冒険』), Harper & brothers, 1892.

いかさまなはやら

古今東西のあらゆる物語から核となるアイデア（物語要素）を析出し、各物語要素ごとに該当する作品の筋書きを紹介する。「物語要素」という切り口で、数多くの作品を端的かつ精緻に例示する決定的大事典。

【言い間違い】

1 あわてたため、駄洒落のない言葉のため、などの理由で言い間違いをする。

【松竹梅（まつたけうめ）】◎松五郎、竹造、梅吉が、婚礼の祝膳客に招かれる。三人の名前を合わせると松竹梅になってめでたいから、彼らは余興で、松五郎（まつたけ）なったらたしかに竹造（たけぞう）、何のことだ、梅吉（うめきち）と言い出すが、練習する、本番では、松五郎と竹造は無事に現るたが、梅吉は「風邪」「蕎麦」「大蛇（おろち）」などと言い間違え、あげくに「ご著になられた」と言ってしまった。

【雷中梅（ちゅうばい）（未仁鉄郎）】編集四回◎秋谷家志望の青年国野慧（けいと）は、友人武井国彦に英和辞書「アイヤモンド」を贈ろうとして、その旨を手紙に記す。ところが、横にいる若者の主人斉藤が「ダイヤモンド」を「ダイヤマイト」と言い間違えたので、国野慧もつられて手紙に「ダイヤマイト」と書いてしまう。【書き間違い】**1**。

【聞き七（ぶんきしち）一 孫悟空石（そんごくうせき）】◎孫悟空は隠遁の志を言うべきところを、「石に枕し、流れに漱ぐ」と言ってしまった。友人が誤りを指摘すると、孫悟空は石に口すすいで歯を磨き、流れに枕して他人に汚れた耳を洗うのだ」と強弁した（『東百漢字の筆名の重ねたる故事』）。

【四つの要石（ドイル）】◎ワトソンはメアリ・モースタンにたびたび、彼女と話す時は、平静な気持ちでいられなかった。彼はアフガン戦争の懐旧談を試みて、「連発銃が深夜のテントをのぞきこんだので、それに向けて私は虎の子供を発射した」などと、とちりあんなことを言ってしまった（『ホワトソンを嘲りた侠、その時の言い間違いを参かされた。

【百聞は法要である（百聞思右）九】◎哲学者八木絵仙は十年前の学生時代以来すっと、無学祖元の偽「電光影裏に春風を斬るこを繰り返している。しかし時々せきこむと「電光影裏」を逆にして、「春風影裏に電光を斬ること」と言い間違える。

2 二人が互いに相手の言葉につられて、言い間違いをする。

【宗論（ぜんろん）】◎法宗の僧と浄土宗の僧が、旅の途中で遭遇れになる。二人は互いに自宗を唱えたことを張して争い、題目と念仏を唱え合う。二人は互いに自宗が優れたことを張して争い、題目と念つつと法華経を唱えて無無阿弥陀仏、浄土僧が「南無妙法蓮華経」と唱えていた（全二人は「法華を捨ぬを唱りこと、仏の教えに二ちなしと他つて、仏意ある）。

3 言い間違いが、隠れた伏線をあらわす。

【精神分析入門（フロイト）】問題集 第一～三章◎象徴説の開陳式で、議長が「開会」と言うべきところを、「閉会」と言い間違えた。議長は、「今度の議会は我が党に不利であるが、すべこに解散できればよい」と考えていたのだった。また、某夫人は夫の食事について、ある人に「お医者様は、何でも「天の好きなもの」を食べてよい」とおっしゃいましたわ」と言うべきところを、「何でも「私」の好きなものを」と言い間違えた。この夫人はかから実話として有名だった。

4 無意ではなく、言葉や概念の近接性によって、言い間違いが起こる。

【虎狩（中島敦）】◎女人の超大癸が「私」に会うとすぐ、「虎狩を一本くれ」と言った。ところが彼は懐銃を持っており、欲しいのは「ゴリラ」なのだった。彼は誰かに頼まれて借りたいと思い、それを金身的要求の感覚ではなく、「ゴリラ」という音楽で記憶していたのだ。そのため「ゴリラ」という言葉をあるこは「虎」にいつのまにかおそれた関係の表象「虎」という言葉あるいは「ゴ」に置き換わり、言い間違えたのだ。彼は「概念泣かず」で考える知識人の連帯だと言った。

5 俳優の言い間違いから、意味の隠喩が決まる。

【死の女歌手（イヨネスコ）】◎イヨネスコは処女戯曲に「禿しい歌唱」「英語の時間」などの題を考えていたが、稽古中に俳優が

著者「まえがき」より抜粋

私は星新一のショートショートの結末（オチ）を分析したいと考えた。乱歩は日本および外国のミステリのトリックを収集して分類した、では、その分析・分類の対象を文学全般、さらに映画や漫画など、ストーリーを有するものすべてに拡大したらどうであろうか。トリックやオチのみならず、物語の核となるアイデア全体（物語の特徴的な「設定」とか「機巧」など）をも考察したらどうであろうか。このような思いが生まれ、ようやく私には、自分の進むべき方向が見え始めてきた。（……）

ところで、言うまでもなくこのたび、古今東西の物語すべてを扱う「物語要素事典」のようなものを個人で作るのは、いかに無謀なことである。一つ一つの物語要素について、その具体的な作品例を数多くあげようとしても、個人の力ではどうしても限界がある。四十年近く前、「物語要素事典」の原型を作り始めた頃は、できるだけ多くの作品例をあげようとし、現在の「物語要素事典」の中にも、その痕跡が残っているのだが、まもなくそれでは際限がないことに気づいた。それで、同じような物語をいくつも並べるのではなく、むしろ、内容の異なる物語をいくつも隣り合わせて、人間が生み出してきた物語の多様性を見るとともに、一見異なる物語相互の間にある関連性を考えて行こう、との方針に切り替えたのである。（……）

個人で無理ならば共同研究、ということが考えられるであろう。共同研究をするとなると、またいろいろな問題が起こってくる。共同研究のメンバーは何名くらいが適当であろうか。人数が多ければ意思通が不可欠だから、数名程度が理想的であろうが、それで共同研究が始められるであろうか。どのような物語要素を選定するか、どのような作品例をあげるか、意見の相違が出てきて、調整には時間がかかるであろうし、時間をかけてもまとまらない可能性もある。さまざまな困難を考えると、それならば同じ一人で独でやってみようと考え、私は一人で「物語要素事典」の作成に取りかかった、というような次第である。

●本編ページ見本：85%縮小

収録項目（全1,135項目）

【相打ち】I仁合音葉I仁合図I愛想づかし】I仁イイデンティティI仁赤ん坊I仁赤ん坊（天界の）I仁赤ん坊がしゃべる】I仁悪魔【悪魔との契約】I毫】I毫】I足が弱うI足跡I足跡からわかること】I足音】I仁供討ち（兄の）】I仁供討ち（夫の）】I仁供討ち（主君の）】I仁供討ち（妻の）】I仁供討ち（動物の）】I仁供討ち（友人の）】I仁供討ちせずI仁あざ名】I頭】I仁後追い心中】I仁穴】I仁兄嫁】I仁姉弟】【I仁】I雨音】I雨乞】I仁【天の川】あまのじゃく】I雨宿】I【雨】I鱗】I鱗】あり得ぬこと】I【アリバイ】【毫】I合わせ鏡】I暗殺】I安楽死】I言い間違いI息】I息が生命を与える】I息が生命を奪う】I生き肝】I異郷訪問】I異郷の時間】I異郷の食物】I生霊】I生贄】I遺産】I【石】I石に化す】I石の誓約】I石の洗濯】I石つぶて】I椅子】I泉】I板】I一妻多夫】I一夫多妻】I糸】I糸と生死糸の弱点】I夫婦の弱点】I夫の秘密】I夫殺】I落とし穴】I【踊り】I【蚊】I【鬼に化す】I【蛇】I【伯母（叔母）】I【親孝行】I【親捨て】I【冰き】I【恩返し】I【恩知らず】I【温泉】I【開眼】I【開眼】I【眼手術】I【外国語】I【改心】I【怪物退治】I【蛙】I【蛙女房】I【蛙】I【顔】I【画家】I【鏡】I【鏡】I【鏡が割れる】I【鏡と映ならI【鏡に映る】I【架空の人物】I【核戦争】I【隠れ身】I【影】I【影のない人】I【駆け落ち】I【賭け事】I【書き換え】I【書き間違い】I【架空の人物】I【貸し借り】I【風】I【風邪】I【風の神】I【火葬】I【仮想世界】I【片足】I【片脚】I【片目】I【語り手】I【河童】I【かつら】I【鰐】I【金】I【金が人手を巡る】I【金を拾う】I【鐘】I【金貸し】I【金貸し殺し】I【壁】I【釜】I【鎌】I【神】I【神に仕える女】I【神になった人】I【神の訴え】I【神の名前】I【神を見る】I【髪】I【髪（女の）】I【髪が伸びる】I【髪を切る・剃る】I【神がかり】I【神隠し】I【亀】I【仮面】I【蚊帳】I【烏（鴉）の教え】I【ガラス】I【川】I【川の流れ】I【厠】I【厠の怪】I【観世】I【観音】I【観法】I【木】I【木に化す】I【木の上】I【木の下】I【木の精】I【木の股】I【記憶】I【帰還】I【聞き違い】I【偽死】I【貴種流離】I【偽あ】I【犠牲】I【狐】I【狐っき】I【狐女房】I【切符】I【きのこ】I【木登り】I【器物霊】I【偽名】I【肝だめし】I【吸血鬼】I【九十九】I【九百九十九】I【経】I【狂言】I【鏡】I【兄弟】I【兄弟と人の名】I【兄弟殺し】I【兄妹】I【兄妹婚】I【凶兆】I【凶兆にあらず】I【恐怖症】I【共謀】I【巨人】I【去勢】I【切れぬ木】I【金】【金貨】I【禁忌（言うな）】I【禁忌（聞くな）】I【禁忌（見るな）】I【禁忌を恐れず】I【銀】I【禁制】I【空間】I【空間移動】I【空襲】I【偶然】I【空想】I【盥洗場】I【釘】I【草】I【くし】I【薬】I【薬と毒】I【くから出る】I【くと魂】I【口に入る】I【口二の】I【唇】I【口封ち】I【靴】I【履】I【首】I【首くくり】I【首のない人】I【熊】I【熊女房】I【雲】I【蜘蛛】I【繰り返し】I【クリスマス】I【車】I【系図】I【契約】I【けがれ】I【毛】I【毛】I【宿】I【結核】I【結婚】I【結婚の策略】I【結婚の障害】I【月】I【決闘】I【仮病】I【剣】I【剣を失う】I【剣を得る】I【幻視】I【原水爆】I【甚】I【恋】I【恋文】I【恋わずらい】I【硬貨】I【交換】I【洪水】I【こうもり】I【高齢出産】I【こ】I【氷】I【古歌】I【誤解】I【誤解による殺害】I【誤解による自死】I【五】I【子】I【子食い】I【極楽】I【小じ】I【子殺し】I【誤解】I【子捨て】I【ことば】I【琴】I【言葉】I【言葉に出す】I【言忌】I【言霊】I【五人兄弟】I【五人姉妹】I【小人】【殺し】I【屋】I【再会（夫婦）】I【再会（父子）】I【再会（母子）】I【再会（兄弟）】I【再会（当人との）】I【再会拒否】I【最期の言葉】I【さいころ】I【妻】I【妻殺】I【最初の人】I【最初の物】I【裁判】I【財布】I【催眠術】I【坂】I【遊さまの世界】I【逆立ち】I【作中人物】I【桜】I【酒】I【酒と水】I【さすらい】I【さすらい】I【悟り】I【猿】I【猿女房】I【猿婚】I【三者択】I【山】I【椒魚】I【残像・残存】I【三】I【題】I【三度目】I【三人兄弟】I【三人姉妹】I【三人の魔女・魔物】I【三人目】I【死】I【死の知らせ】I【死刑】I【塩】I【塩（任返し）】I【時間】I【時間が止まる】I【時間旅行】I【死期】I【四季の部屋】I【識別力】I【地獄】I【自己】I【自己視】I【自己】I【の対話】I【自殺願望】I【自傷行為】I【自縄自縛】I【地震】I【紙銭】I【死相】I【地蔵】I【舌】I【死体】I【死体から食物】I【死体消失】I【死体処理】I【死体変相】I【士人・七】I【歯痛】I【自転車】I【死神】I【芝居】I【紙幣】I【島】I【姉】I【姉妹】I【二人の男】I【姉妹】I【二人の男】I【死刑】I【死亡】I【指紋】I【弱点】I【写真】I【写真と生死】I【シャム双生児】I【銃】I【周囲】I【十五歳】I【十三歳】I【十字架】I【醜】I【女】I【醜貌】I【手術】I【人工】I【出産】I【出生】I【処女】I【処女懐胎】I【寿命】I【呪文】I【順送】I【女装】I【女中】I【初夜】I【風】I【心中】I【心臓】I【人造人間】I【人肉食】I【神】I【仏】I【助】I【人面瘡（人面疽）】I【心霊写真】I【水死】I【水浴】I【頭痛】I【鼎】I【すばる】I【相撲】I【すりかえ】I【すれ違い】I【寸断】I【精液】I【性器（男）】I【性器（女）】I【性交】I【性交せず】I【性交と】I【生死不明】I【成長】I【成長せず】I【性転換】I【生命】I【生命指標】I【四】I【腹】I【接吻】I【背】I【背中の女】I【背中の死体】I【背中の仏】I【蝉】I【千】I【前世】I【前世を語る】I【前世を知る】I【戦争】I【洗濯】I【千里眼】I【象】I【像】I【葬儀】I【装身具】I【底な】I【蘇生】I【蘇生者の言葉】I【空飛ぶ円盤】I【体外の魂】I【体外離脱】I【太鼓】I【第二の子】I【太陽】I【太陽を射る】I【太陽を止める】I【太陽と月】I【太陽と月の夢】I【太陽と月の別れ】I【鷹】I【宝】I【宝が入手を巡る】I【宝を失う】I【宝くじ】I【宝さがし】I【多元宇宙】I【蛸】I【堕胎】I【畳】I【たぬき】I【脱皮】I【旅】I【旅立ち】I【玉・珠】I【男】I【魂】I【魂の数】I【魂呼ばい】I【樽】I【俵】I【弾丸】I【誕生】I【誕生（植物から）】I【誕生（卵から）】I【誕生（血から）】I【誕生（動物から）】I【誕生（母体から）】I【男性遍歴】I【男装】I【血】I【血の味】I【血の子】I【知恵比べ】I【誓】I【地下鉄】I【ちくらび】I【地球】I【稚児】I【地図】I【父子関係】I【父と息子】I【父と娘】I【父の霊】I【父娘婚】I【父殺し】I【父さがし】I【乳房】I【チフス】I【地名】I【血文字】I【茶】I【仲介者】I【蝶】I【長者】I【長者没落】I【長寿】I【追放】I【通訳】I【月】I【月と月の光】I【月の満ち欠け】I【月の模様】I【月旅行】I【辻占】I【土】I【唾】I【壺】I【妻】I【妻争い】I【妻食い】I【妻殺】I【爪】I【釣り】I【鶴女房】I【手】I【デウス・エクス・マキナ】I【手紙】I【手ざわり】I【手相】I【鉄】I【掌】I【手毬唄】I【天】I【天狗】I【転校生】I【天国】I【天使】I【転生】I【転生（動物への）】I【転生する男女】I【転生と性転換】I【転生と天皇】I【転生先】I【天井】I【電信】I【天地】I【天人降下】I【天人女房】I【天人の衣】I【電話】I【同人物】I【同音異義】I【盗作・代作】I【同日の死】I【同日の誕生】I【投身自殺】I【同性愛】I【逃走】I【鶴】I【時】I【土】I【土葬】I【土地】I【隣の釜】I【扉】I【姑】I【姑婚】I【ともし火】I【虎】I【鳥】I【鳥に化す】I【鳥の教え】I【取り合わせ】I【取り替え子】I【取り違え】I【取り違えた】I【取り違えた花嫁】I【取り違えた夫婦】I【泥棒】I【トンネル】I【菜】I【名当ち】I【長い眠り】I【流れ星】I【泣き声】I【謎】I【名付け】I【名前】I【波】I【涙】I【難題】I【難題求婚】I【難題問答】I【虹】I【二者択】I【二者同想】I【に】I【生金】I【にせ狂人】I【にせ首】I【にせ人】I【にせ心中】I【にせ手紙】I【にせの宝】I【にせ花嫁】I【にせものの】I【にせもの】I【にせ幽霊】I【百貨】I【尿】I【女護が島】I【女人禁制】I【にら合い】I【鶏】I【ね】I【鼠】I【人】I【形】I【人形を】I【人間】I【人間を造る】I【妊娠】I【妊娠（男の）】I【妊娠（風呂による）】I【妊娠（太陽による）】I【妊娠（玉を得て）】I【妊娠期間】I【人】I【人数】I【人数が合わない】I【人数が合わ】I【ぬ】I【ぬ】I【ぬ】I【盗ま】I【濡れ衣】I【願い事】I【猫】I【猫と鼠】I【寝言】I【ねずみ】I【熱湯】I【眠り】I【眠り姫】I【眠る】I【眠る】I【眠る】I【眠る怪物】I【眠り王】I【眠り王女】I【のぞき見】I【のぞき見（僧を）】I【のぞき見（妻を）】I【のぞき見（人妻を）】I【のぞき見（部屋を）】I【乗っ取り】I【ひ】I【ひなおし】I【ひ】I【ひ】I【葉】I【葉と金銭】I【髪】I【灰】I【売買】I【売買のいかさま】I【麓】I【髪】I【秤】I【白髪】I【死ぬ頭】I【化け物屋敷】I【箱】I【箱の中身】I【箱を開ける】I【箱を開ける女】I【箱船】I【方舟】I【橋】I【橋が落ちる】I【橋の上の出会い】I【橋を架ける】I【箸】I【梯子】I【破傷風】I【箸】I【八月十五夜】I【八人・八体】I【血】I【血病】I【鳩】I【花】I【花の精】I【鼻】I【母なるもの】I【母と息】I【母と娘】I【母の霊】I【母子婚】I【母殺し】I【母】I【母さがし】I【腹】I【針】I【鍼】I【パン】I【半】I【半生半人】I【半人】I【半人半人】I【反魂】I【半死半生】I【半身】I【ハンセン病】I【犯人さがし】I【ひ】I【火の雨】I【日】I【光】I【光と生死】I【引きこもり】I【飛】I【飛行】I【飛行機】I【膝】I【美女奪還】I【火攻め】I【額の印】I【棺】I【人買い】I【人】I【人魂】I【人魂に】I【秘密の子】I【秘密を語る】I【百】I【百物語】I【百鬼夜行】I【憑依】I【病】I【病院】I【病気】I【瓢箪】I【ひょうたん】I【瓶】I【貧乏神】I【封印】I【福の神】I【袋】I【不死】I【豚】I【双】I【双子】I【双子（別々に育つ）】I【双子婚】I【二つの宝】I【二夫】I【二人（夫）】I【二人（殺人で終わる）】I【二人（夫）】I【二人（自死で終わる）】I【二人妻】I【二人妻（等分に愛する）】I【二人妻の出産】I【二人の王】I【二人の神】I【二人の仏】I【二人（二役）】I【仏会利】I【葡萄】I【舞踏会】I【ふたん】I【船】I【不能】I【不倫】I【風呂】I【分割】I【焚】I【分身】I【分身（多数）】I【兵役】I【ペ】I【蛇】I【蛇と金】I【蛇と剣】I【蛇と酒】I【蛇に化す】I【蛇の室】I【蛇退治】I【蛇女房】I【蛇婚】I【蛇息】I【部屋】I【変化】I【変身】I【変身（醜から美に）】I【変身（動物から人に）】I【変身（人から動物に）】I【返答】I【棒】I【放火】I【忘却】I【忘却（妻を）】I【墓行】I【墓行（人妻を）】I【帽子】I【放】I【坊主頭】I【ポタンゾ】I【北斗七星】I【ほくろ】I【歩む】I【星】I【星と生死】I【星と化す】I【星の化身】I【蛍】I【発心】I【ホテル】I【本子】I【待つべき期間】I【真似】I【まばたき】I【継子】I【継子いじめ】I【継子殺】I【継子への愛】I【守り札】I【麻薬】I【眉毛・睫毛】I【曼荼羅】I【ミイラ】I【身売り】I【身代わり】I【身代わり・夫の】I【身代わり・主君の】I【身代わり・人体の】I【身代わり・病者の】I【身代わり・友人の】I【水】I【水に化す】I【湖】I【水鏡】I【水鏡に映る自己】I【水鏡に映る未来】I【見立て】I【道】I【道に通れ】I【蜜の】I【蜜を】I【蜜】I【通】I【三つの宝】I【三つ目】I【身投げ】I【身分が不足】I【耳】I【耳を切る】I【未来】I【未来記】I【目】I【無限婚選び】I【無告】I【無言】I【無心】I【無尽蔵】I【無性の人】I【胸騒ぎ】I【夢遊病】I【無理心中】I【目】I【目の左右】I【目を閉じる】I【目を抜く】I【冥界行】I【冥界にあらず】I【冥界の穴】I【冥界の】I【冥界の坂】I【冥界の時間】I【冥界の食物】I【冥界の道】I【冥婚】I【冥府往還】I【迷路】I【眼鏡】I【女神】I【目印】I【目印を消す】I【面】I【麺】I【申し子】I【言占】I【盲目になる】I【盲目の人】I【木馬】I【文字】I【文字が消える】I【餅】I【もとにもどる】I【物語】I【物語・議論】I【物語（小説）】I【物狂い】I【物の怪】I【物を】I【ものの】I【桃】I【百夜通い】I【森】I【モ】I【問答】I【矢】I【矢が戻る】I【厄年】I【火傷】I【宿】I【宿の】I【宿の巡り合わせ】I【宿を】I【請う】I【屋根】I【ユ】I【山】I【山と】I【死】I【山の起源】I【山の神】I【宿】I【宿の】I【女】I【宿の巡り合わせ】I【ゆ】I【ゆ】I【ゆ